法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月　１日

赤口 尾
旧５月 14 日
土曜

妙法蓮華経方便品第二

衆生垢重（しゅじょうくじゅう）

「衆生の垢重く」

衆生の「垢」とは迷いのこと。
世の中が濁って乱れてくると、大勢の人々の迷いが非常に重くなり、惜しむ・貪る・嫉妬するなどの心持ちが充満してきます。
貪る心には惜しむ気持ちが伴います。
努力して得たものだから人に取られたくない。
皆が欲しがるものを力づくで奪い合う。
その結果、恨み合い、妬み合い、気づかぬうちに垢が溜まっていくのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月　**２**日　先勝　箕
旧５月１５日
日曜

妙法蓮華経方便品第二

分別説三（ふんべつせつさん）

「分別して三乗を説く」

人は目の前のことにとらわれて迷い、貪りや怒りの気持ちを持っているので、最初から仏の道を説いても耳に入りそうもない。
それを承知しているお釈迦さまは、相手に応じて低い方から高い方へ、浅い方から深い方へと、三つの段階に分けて教えを説かれました。
それが、声聞（まず自分の欲望を捨てる）・縁覚（次に己を捨てる）・菩薩（人のために尽くそうと努める）の三乗です。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月　３日　月曜

友引　斗
旧５月16日

妙法蓮華経方便品第二

此非仏弟子

「此れ仏弟子にあらず」

自分の欲望を捨て世間にとらわれないことで満足している声聞や、自己を捨て自分だけ高みから世の中を見下ろしている縁覚は、真の仏弟子ではないとお釈迦さまは告げられました。
自らの修行に励むとともに、世の人々を救おうと努める菩薩の身を仏弟子と認め教化すると説かれたのです。
声聞・縁覚で止まっていては、仏さまの教えも聞くこともなく終わってしまうのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月　４日　火曜

先負　女
旧５月17日

妙法蓮華経方便品第二

一心信解（いっしんしんげ）

「心ひとつに仏さまの教えを信じ理解する」

心ひとつにして、些細なことに惑わされず、仏さまの教えを信じ理解する。信仰の要点はこれに尽きるところです。ところが、ご利益を求めたり、心が散漫になったりして、「一心信解」に至らないのが私たち凡夫です。自分は迷っている凡夫であることを自覚し、迷いから離れて、仏さまの境界に近づきたいと一心に念じることから始めましょう。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯

２０２３年

７月　５日　水曜

仏滅 虚

旧５月18日

妙法蓮華経方便品第二

増上慢（ぞうじょうまん）

「うぬぼれ・慢心」

「増上慢」とは、まだ悟っていないのに悟ったつもりになっている人。

私たちは情報に振り回され、要らないことに心が向き、大事なことを見失いがちです。

仏さまの教えは何かの形で私たちの周りに存在しているのに、それに気づくことができなくなり、自分に都合の良い教えだけを受け入れて、悟ったつもりになっていないか、気をつけねばなりません。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 **6** 日 木曜

大安　危
旧５月19日

妙法蓮華経方便品第二

我慢（がまん）

「自己中心・強情な心」

「我慢」とは、自分の都合ばかりを考えて、万事につけて自己中心になることです。「耐え忍ぶ」の意味で用いられる「我慢」は、我意を張る・強情な心などの転用で、近世後期から使われるようになったといわれます。自分を偉いと思っておごり、他を侮る高慢な心持では、仏さまの難信難解の教えを受持することはできません。素直な心で信じることから始まるのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月　７日　金曜

赤口　室
旧５月20日

妙法蓮華経方便品第二

不信（ふしん）

「理解できないことを信じようとしない」

自分に理解できないことは信じられないという心持ちが「不信」です。
初めから理解できるはずがないと決めつけてしまうと、少しでも理解しようと努力もしなくなります。
仏さまの教えも理解できないから、信じられないということになり、仏さまから遠ざかってしまいます。
だからこそ「信」が大事なのです。

妙法蓮華経方便品第二

舎利弗。劫濁乱時。衆生垢重。慳貪嫉妬。成就諸不善根故。諸仏以方便力。於一仏乗。分別説三。舎利弗。若我弟子。自謂阿羅漢。辟支仏者。不聞不知。諸仏如来。但教化菩薩事。此非仏弟子。非阿羅漢。非辟支仏。又舎利弗。是諸比丘。比丘尼。自謂已得。阿羅漢。是最後身。究竟涅槃。便不復志求。阿耨多羅三藐三菩提。当知此輩。皆是増上慢人。所以者何。若有比丘。実得阿羅漢。若不信此法。無有是処。除仏滅度後。現前無仏。所以者何。仏滅度後。如是等経。受持読誦。解其義者。是人難得。若遇余仏。於此法中。便得決了。舎利弗。汝等当。一心信解。受持仏語。諸仏如来。言無虚妄。無有余乗。唯一仏乗。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言

比丘比丘尼　有懐増上慢　優婆塞我慢　優婆夷不信

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 8日 土曜

小暑
先勝 壁
旧５月21日

妙法蓮華経方便品第二

無量方便力
（むりょうほうべんりき）

「数限りない方便によって説く」

お釈迦さまは舎利弗に、真実の教えを無量の方便をもって説くと告げられました。
真実の教え・仏さまが悟った内容は、言葉で容易に伝えることはできません。
そこで仏さまの教えは数限りない方便によって伝えられるのです。
方便や譬え話によって伝えられた教えを、自分の中で昇華させ体得していくことが修行なのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 **9** 日
友引 奎
旧５月２２日
日曜

妙法蓮華経方便品第二

九部法（くぶきょう）

「方便を説くの九つの方法」

「方便品」には方便を説く方法として、次の九つがあげられています。

①修多羅…経典（教えの言葉そのもの）　②伽陀…詩句（詩でまとめた教え）　③本事…仏弟子の過去の因縁　④本生…仏の前生　⑤未曽有…仏の奇跡　⑥因縁…因縁の解説　⑦譬喩…たとえ話で表した考え　⑧祇夜…散文＝説かれた教えを再度詩で表したもの　⑨優波提舎経…問答を通して説かれた教え

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 10日 月曜

大安 畢
旧５月23日

妙法蓮華経方便品第二

入大乗為本（にゅうだいじょういほん）

「大乗に入る唯一の道理」

方便の教えである「九部法」は、受け取る側の能力に応じて説かれたもので、徐々に深い教えに入っていくための手掛かりです。
方便の教えで満足していては、真実の教えに至ることはできません。
逆に、仏さまを信じていればそれだけでよいと、方便の教えは軽んじては大乗に至ることができません。
これが仏道に入る唯一の道理「理一」です。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 **11** 日 火曜

仏滅　胃
旧５月24日

妙法蓮華経方便品第二

有仏子心浄（うぶっししんじょう）

「仏子の心浄く」

善人も悪人も、皆仏に成ることができるという仏性を備えています。
迷いに落ちていても、誰もが心の奥底には仏さまと同じような性格を持っているのだから、どれほど時間がかかっても、いつかは仏に成れるとお釈迦さまは説かれています。
心浄く煩悩を離れたところで、善悪を見極め、仏さまの教えを実行できる人が、仏道に入る唯一の人「人一」です。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
7月12日 水曜

大安　昴
旧５月25日

妙法蓮華経方便品第二

唯有一乗法（ゆいういちじょうほう）

「ただ一乗の法あり」

無数に存在する仏さまが説かれる教えは、すべて真実、ただ一つ「一乗の法」です。
真実の教えは一つでも、相手の理解に合わせて方便を駆使し、浅い教えから深い教えへと導くので、様々な宗派が生まれてきました。
しかし最後に行きつくところは「一乗の法」。
このように、すべての教えが統一されていくことを「教一」といいます。私たちも徐々に理解を深め、「一乗の法」に近づきましょう。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 13日 木曜

赤口 畢
旧５月26日

妙法蓮華経方便品第二

唯此一事実（ゆいしいちじじつ）

「ただこの一事のみ実なり」

仏さまは、徐々に導いていけば誰もが仏に成れるとご承知の上で、全力で教えを説いてくださいます。
この一事が仏さまの行い「行一」です。
仏さまは絶大に慈悲をもって、どんな愚かな人間も救おうと惜しむことなく導いてくださいます。
私たちは、この一事が揺るぎのないものだと信じて、教えをいただくことが肝要です。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 14日 金曜

先勝 觜
旧５月27日

妙法蓮華経方便品第二

我本立誓願（がほんりゅうせいがん）

「我れもと誓願を立つ」

お釈迦さまは、悟りを開き、教えを説かれる前から「誓願」を立てられていました。その「誓願」とは、一切衆生を自分と同じように悟りに導きたいということです。一切衆生・生きとし生けるものはすべて、仏に成る本性・仏性を具えているのだから、それぞれの能力に応じて、方便を用いながら徐々に高みに導いて、覚りに至らせようという、実に広大な誓いと願いなのです。

妙法蓮華経方便品第二

無量方便力　而為衆生説　衆生心所念　種種所行道　若干諸欲性　先世善悪業

〈略〉

我此九部法　随順衆生説　入大乗為本　以故説是経　有仏子心浄　柔軟亦利根
無量諸仏所　而行深妙道　為此諸仏子　説是大乗経　我記如是人　来世成仏道
以深心念仏　修持浄戒故　此等聞得仏　大喜充気身　仏知彼心行　故為説大乗
声聞若菩薩　聞我所説法　乃至於一偈　皆成仏無疑　十方仏土中　唯有一乗法
無二亦無三　除仏方便説　但以仮名字　引導於衆生　説仏智慧故　諸仏出於世
唯此一事実　余二則非真　終不以小乗　済度於衆生　仏自住大乗　如其所得法
定慧力荘厳　以此度衆生　自証無上道　大乗平等法　若以小乗化　乃至於一人
我則堕慳貪　此事為不可　若人信帰仏　如来不欺誑　亦無貪嫉意　断諸法中悪
故仏於十方　而独無所畏　我以相厳身　光明照世間　無量衆所尊　為説実相印
舎利弗当知　我本立誓願　欲令一切衆　如我等無異　如我昔所願　今者已満足

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 **15** 日 土曜

友引 参
旧５月28日

妙法蓮華経方便品第二

化一切衆生　皆具成仏道

（けいっさいしゅじょう　かいぐじょうぶつどう）

「一切衆生をして、皆仏道に入らしむ」

仏道とは・自利（自分を善くする）と利他（他者を善くする）を具えたものです。

「一切衆生をして、皆仏道に入らしむ」とは、自分が仏に近づく修行をすると同時に、皆も仏に近づくように導くということです。

自分が幸せになるだけでなく、他者を幸せにするということが自分の悦びともなります。

そして、皆でともに仏道に入り、歩んでいくことで、仏の世界がつくられていくのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 16日
先負 井
旧５月29日
日曜

妙法蓮華経方便品第二

痴愛故生悩（ちあいこしょうのう）

「痴愛の故に悩み生ず」

「痴愛」とは、愛にとらわれることです。痴には自分中心という意味があり、独占欲につながるものです。愛情や親しみをもって接していても、「自己満足を得るためのものになっていないか」「相手も満足しているか」、それらを冷静に見ることができなくなっていたら注意信号です。我々凡夫は、貪りを伴う愛情＝「貪愛（とんない）」に陥り、道に迷ってしまうのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 **17** 日 月曜

仏滅 鬼
旧５月30日

妙法蓮華経方便品第二

墜堕(ついだ)三悪道(さんあくどう)

「三悪道に墜堕し」

「三悪道」とは地獄・餓鬼・畜生のこと。瞋りの念に苛まれたとき地獄道に、貪りの念に満たされると餓鬼道に、愚かで浅ましい気持ちになると畜生道に堕ちるといわれます。堕ちるのは自分の体ではなく、心の中に三悪道が生じるということです。愛憎や欲望、自己中心の気持ちが苦しみを大きくしていることに気づかずに、三悪道から這い上がれなくならないようにご注意を。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 18日 火曜

赤口 鬼
旧６月１日

妙法蓮華経方便品第二

若有（にゃくう）若無（にゃくむ）等（とう）

「若しは有、若しは無等に入り」

「有」は、全ての物は変わらないという観方。
「無」は、全ての物は常に変わるという観方。
そのどちらにとらわれても迷いが生じます。
変化のない退屈な生活をしていると緊張感が緩み努力をしなくなります。
変化が大きく先の読めない時代になると刹那主義・享楽主義になりかねません。
変わらないとしがみつき、変わりやすいと投げやりになり、迷いが生まれるのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 **19** 日 水曜

先勝 柳
旧６月２日

妙法蓮華経方便品第二

具足六十二（ぐそくろくじゅうに）

「六十二の誤った見解を具えた私たち」

人間存在を構成する要素「五蘊」（①色（肉体）②受（感情）③想（観念）④行（意思）⑤識（認識）。外界（物）と自分（我）に関する「四見」（①物大我小②物小我大③物因我果④我果我因）。「五蘊」の各々に「四見」が起き五×四＝二十となり、その二十が過去・現在・未来の三世に起き二十×三＝六十となり、無常を意味する「断」と、変わらない「常」を加えた六十二の誤った見解を持つのが私たち人間です。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 20日 木曜

友引 星
旧６月３日

妙法蓮華経方便品第二

如是人難度
（にょぜにんなんど）

「かくの如き人は度し難し」

誤った見解を持ち、正しい教えを聞こうともしない人は救いがたいと考えてしまいます。それでも自分に縁のある人であれば、手を差し伸べようという気持ちになりますが、全くの他人にはその気持ちは起きないものです。しかし仏さまは、一人も見放すことなく救おうと慈悲をかけてくださいます。度し難い、救いがたい相手にも理解しやすいことから徐々に導いてくださるのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月２１日 金曜

先負 張
旧６月４日

妙法蓮華経方便品第二

諸法従本来（しょほうじゅうほんらい）　常自寂滅相（じょうじじゃくめつそう）
仏子行道巳（ぶつしぎょうどうい）　来世得作仏（らいせとくさぶつ）

「悟りの境地に向かって徐々に行じる」

すべての世の法の中の法則には、どんな変化があっても一貫して元から変わらないものがあります。

それは「寂滅の相」、つまり煩悩の火が消えて心が静まっている状態、悟りの境地です。

仏の子、弟子はその寂滅に向かって、仏さまへの道を徐々に行じていけば、来世には仏に成ることができるということです。

この四句は追善回向に用いられています。

妙法蓮華経方便品第二

化一切衆生　皆令入仏道
無智者錯乱　迷惑不受教
堅著於五欲　痴愛故生悩
輪廻六趣中　備受諸苦毒
薄徳少福人　衆苦所逼迫
依止此諸見　具足六十二
我慢自矜高　諂曲心不実
亦不聞正法　如是人難度
説諸尽苦道　示之以涅槃
諸法従本来　常自寂滅相
我有方便力　開示三乗法
今此諸大衆　皆応除疑惑

若我遇衆生　尽教以仏道
我知此衆生　未曾修善本
以諸欲因縁　墜堕三悪道
受胎之微形　世世常増長
入邪見稠林　若有若無等
深著虚妄法　堅受不可捨
於千万億劫　不聞仏名字
是故舎利弗　我為設方便
我雖説涅槃　是亦非真滅
仏子行道已　来世得作仏
一切諸世尊　皆説一乗道
諸仏語無異　唯一無二乗

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 22日 土曜

仏滅　翼
旧６月５日

妙法蓮華経方便品第二

過去無数劫（かこむしゅこう）　無量滅度仏（むりょうめつどぶつ）

「過去に滅度した仏さまも唯一の教えを説く」

現在までの数限りない過去において、量り知れない数の仏さまが涅槃に入られました。その多くの仏さまたちは皆同じく、世間の出来事を例に引いて、たとえ話や方便を用いて法を説きますが、行きつく所はただ一つ、真実の教えです。

一切衆生の悦びを自分の悦びとして、救い導く方法は、過去・現在・未来の三世にわたって変わることはないのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月２３日
日曜

大安 軫
旧６月６日

妙法蓮華経方便品第二

小善成仏（しょうぜんじょうぶつ）

「小さな善行にも仏の種を認める」

「小善」とは、衆生が行う善行のことで菩薩や仏の「大善」に比べ小さな善ということです。「方便品」には、仏舎利の供養・造塔・造仏・仏画・音楽・装飾・称名・礼拝等の善行が挙げられ、衆生の「小善」の中にも仏の種を認め、成仏できると説かれています。高い山の頂きに降った雨が谷の底まで潤すように、最高の教えが末法の衆生を救うことができるという教えです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 24日 月曜

大暑
赤口 角
旧６月７日

妙法蓮華経方便品第二

乃至童子戯　聚沙為仏塔
（ないしどうじけ　じゅしゃいぶっとう）

「童子が戯れに砂を集めて仏塔を建てた」

幼な子が砂遊びをしなら塔を建てる。それを手始めに仏さまに接する心持ちを育て段々に功徳を積み重ねていくと、大慈悲心を具える仏さまに近づけるのです。亡き方のお墓参りをして、段々に功徳を積んで、仏さまのように一切の人を憐れむ心持ちを育てていくと、やがて本当の仏に成れるということです。小さな芽を大事に育て花を咲かせましょう。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月 25日 火曜

先勝 亢
旧６月８日

妙法蓮華経方便品第二

未来諸世尊　其数無有量
（みらいしょせそん　ごしゅむうりょう）

「未来の仏さまも数限りなくいらっしゃる」

今この時から後の時間はすべて未来です。その未来の世において、数限りない仏さまが、過去・現在の仏さまと同じく、方便を駆使して低い方から高い方へと私たちを導いてくださいます。

まだ見ぬ未来に不安を感じるときも、たくさんの仏さまが待機して、導いてくださると信じ、小さな善行を積み重ねていきましょう。

未来のセイフティーネットは万全です。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
7月26日 水曜
友引 氏
旧６月９日

妙法蓮華経方便品第二

若有聞法者　無一不成仏

にゃくうもんぽうしゃ　むいつふじょうぶつ

「一人として成仏しない者はいない」

人間は皆仏性を持っており、仏に成ることができる本性を持っています。そして「聞法（法華経を聞く）」という修行によって、すべての人が仏に成れるのです。純粋に法華経を信仰すれば成仏すること間違いなしという文証です。

「一人として」というのは、賢者も愚者もすべて漏れることなく、必ず悟りへと導かれるということです。ありがたいことです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
7月27日
先負 房
旧７月10日
木曜

妙法蓮華経方便品第二

仏種従縁起（ぶっしゅじゅうえんぎ）

「仏種は縁によって起こると知ら示す」

「仏種」は仏となる必然性、元来は「仏性」と同義語ですが、「仏性」は外的な一切の影響を受けない永遠不滅の因性であるに対して、「仏種」は作られたもの、また保管の仕方が悪ければ腐った種となるから、生滅変化するものであるという印象があります。

縁があって成仏への思い(菩提心)が生じます。

しかし、この縁にたどり着くのは難しいからこそ、多くの仏さまが出現して導くのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
7月28日
仏滅 心
旧６月11日
金曜

妙法蓮華経方便品第二

現在十方仏　其数如恒沙
（げんざいじっぽうぶつ　ごしゅにょごうしゃ）

「現在十方の仏　其の数恒河沙の如し」

お釈迦さまがいらっしゃる娑婆世界以外にも十方のあらゆる世界にガンジス川の砂の数ほどのたくさんの仏さまの世界があり、それぞれの場所で教えを説かれています。

過去・現在・未来という時間軸と同時に、十方世界という空間軸の広がりの中にたくさんの仏さまが、大勢の人の心を安らかにしようと、お釈迦さまと同じ唯一の法を説かれているのです。

妙法蓮華経方便品第二

過去無数劫　無量滅度仏　百千万億種　其数不可量　如是諸世尊
種種縁譬諭　若於曠野中　積土成仏廟　乃至童子戯　聚沙為仏塔
如是諸人等　皆已成仏道

〈略〉

若有聞是法　皆已成仏道　未来諸世尊　其数無有量　是諸如来等
亦方便説法　一切諸如来　以無量方便　度脱諸衆生　入仏無漏智
若有聞法者　無一不成仏　諸仏本誓願　我所行仏道　普欲令衆生
亦同得此道　未来世諸仏　雖説百千億　無数諸法門　其実為一乗
諸仏両足尊　知法常無性　仏種従縁起　是故説一乗　是法住法位
世間相常住　於道場知已　導師方便説　天人所供養　現在十方仏
其数如恒沙　出現於世間　安穏衆生故　亦説如是法　知第一寂滅
以方便力故

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
7月29日 土曜

大安 尾
旧６月１２日

妙法蓮華経方便品第二

我始坐道場（がしざどうじょう）

「我始め道場に坐し」

お釈迦さまはブッタガヤの菩提樹の下で悟りを開かれました。これを「始成正覚」といい、歴史上の人物としてのお釈迦さまが初めて悟りを得たことを示します。

しかし、「如来寿量品」において、お釈迦さまは久遠の過去世に悟りを得られたことが顕され、娑婆世界で衆生を永遠に導き続けていることが説かれます。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月30日

赤口 箕
旧６月13日
日曜

妙法蓮華経序品第一

即趣波羅奈（そくしゅはらない）

「即ち波羅奈に趣く」

「波羅奈」とは、お釈迦さまが初めて説法をされた諸転法輪の地「鹿野苑」のある国の名前です。

ブッダガヤの菩提樹下で悟りを得たお釈迦さまは、過去・未来・現在十方の仏さまと同じように、はじめから難しいことを説いても理解されないので、まずは方便の教えを説こうと憍陳如ら五人の比丘が修行する波羅奈に趣いたのです。

法華経　日めくり

令和５年 癸卯
２０２３年
７月３１日 月曜

先負 斗
旧６月14日

妙法蓮華経序品第一

為五比丘説（いごびくせつ）

「五比丘の為に説く」

お釈迦さまは鹿野苑へ趣いて五人の比丘に最初に法を説きました。

この五人の比丘は、お釈迦さまが修行を捨てたと思い込み軽蔑の念を抱いていましたが、お釈迦さまの堂々とした姿を見て自然に立ち上がって座に迎えたといわれています。

彼らが仏教に帰依して布教活動したことで、初期仏教教団の重要な役割を果たしたといわれ、この説法は初転法輪と呼ばれています。

妙法蓮華経方便品第二

為是衆生故　而起大悲心　我始坐道場　観樹亦経行　於三七日中　思惟如是事
我所得智慧　微妙最第一　衆生諸根鈍　著楽痴所盲　如斯之等類　云何而可度
爾時諸梵王　及諸天帝釈　護世四天王　及大自在天　竝余諸天衆　眷属百千万
恭敬合掌礼　請我転法輪　我即自思惟　若但讃仏乗　衆生没在苦　不能信是法
破法不信故　墜於三悪道　我寧不説法　疾入於涅槃　尋念過去仏　所行方便力
我今所得道　亦応説三乗　作是思惟時　十方仏皆現　梵音慰諭我　善哉釈迦文
第一之導師　得是無上法　随諸一切仏　而用方便力　我等亦皆得　最妙第一法
為諸衆生類　分別説三乗　少智楽小法　不自信作仏　是故以方便　分別説諸果
雖復説三乗　但為教菩薩　舎利弗当知　我聞聖師子　深浄微妙音　喜称南無仏
復作如是念　我出濁悪世　如諸仏所説　我亦随順行　思惟是事已　即趣波羅奈
諸法寂滅相　不可以言宣　以方便力故　為五比丘説　是名転法輪　便有涅槃音
及以阿羅漢　法僧差別名